

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査目的	3
2. 調査設計	3
3. 調査項目	3
4. 回収結果	4
5. 報告書の見方	4
6. 標本誤差	5
II 回答者の属性	7
III 調査結果	15
1. 定住意向	17
(1) 八王子市に住んで良かったと思うか	17
(2) 八王子の魅力を紹介した経験	20
(3) 定住意向	23
(4) 住み続けたい理由	26
(5) 市外へ移りたい理由	29
(6) 生活環境の評価	32
2. 文化芸術	38
(1) 文化芸術活動への参加頻度	38
(2) 文化芸術について興味のある分野	40
(3) 現在の文化芸術活動への取り組み	42
(4) 文化芸術活動に取り組んでいない理由	45
(5) 今後の文化芸術活動への取り組み	48
(6) 文化芸術活動のために利用した市の施設	51
(7) 市の施設を利用していない理由	54
(8) 文化芸術活動への参加を活発にするための施設の活用方法	57
(9) 文化芸術に関する情報の入手先	60
(10) 文化芸術に関して知りたいこと	62
(11) 八王子市の文化芸術振興で目指すべき姿	64
(12) 文化芸術振興に関する自由意見	66

3. 家庭教育	67
(1) 家庭の教育力の変化	67
(2) 家庭の教育力が低下していると思う理由	69
(3) 家庭での子どもとの関わり方で保護者が重視すべきこと	72
(4) 家庭の教育力を向上させるために必要なこと	75
(5) 家庭教育について学習をした経験	78
(6) 家庭教育について学習したこと	80
(7) 家庭教育について学習する方法	83
4. 「八王子ビジョン2022」の施策指標の目標値に対する達成度	86
(1) 窓口サービスの満足度	86
(2) 市政情報のわかりやすさ	88
(3) 健康のために心がけていること	90
(4) 1年間の運動頻度	93
(5) かかりつけの医療機関の有無	96
(6) 1年間に取り組んだ生涯学習活動	98
(7) 知識や技能、経験の活かし方	101
(8) 食料の備蓄の有無	104
(9) 食料の備蓄量	106
(10) 食料を備蓄していない理由	108
(11) 飲料水の備蓄の有無	111
(12) 飲料水の備蓄量	113
(13) 飲料水を備蓄していない理由	115
(14) 隣近所とのつきあい方	118
(15) 地域と子どもたちとのかかわりあい	121
(16) 地域と学校の協力による子どもたちの育み	123
(17) 市などの支援による子育ての状況	125
(18) 安心した子育てができていないと思う理由（自由意見）	127
(19) 市民協働の進捗状況	128
(20) 地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況	130
(21) 障害のある方への理解や配慮	133
(22) 誰もが安全で快適に暮らせるまち	135
(23) 市内の交通渋滞緩和	137
(24) 公共交通の利便性の満足度	139
(25) 都市の美観が保持されたまち	141
(26) 自然、歴史、文化が活かされた景観	143
(27) 市内の産業活動	145

(28) 市内の農産物の購入	147
(29) 地球環境への配慮	150
(30) 生ごみのたい肥化の有無	152
(31) 市の生活環境	155
(32) 「生物多様性」の周知度	157
(33) ワークライフバランスの周知度 ①あなたの望む優先度	160
(34) ワークライフバランスの周知度 ②実際の優先度	164
(35) 市の相談体制の満足度	171
5. 市政への要望	173
(1) 重点施策要望	173
(2) 行財政運営	177
IV 調査票	179

I 調査の概要

1. 調査目的

この調査は、市民の生活環境への意識、市の施策に対する評価及び市政への意見・要望を把握し、本市の市政運営の資料として活用することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：八王子市内全域
- (2) 調査対象：市内在住の満20歳以上の男女個人
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 調査方法：郵送配布・郵送回収
- (5) 調査期間：平成27年5月18日～5月31日
- (6) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出法
 - ・層 化…「八王子ビジョン2022」で示された6地域（下の地域区分図参照）・14管内の調査対象人口に応じて調査数を比例配分。
 - ・対象者抽出…14管内別に単純無作為抽出。

【本調査における地域区分】

- 中央地域：本庁管内
- 西部地域：元八王子・恩方・川口
- 西南部地域：浅川・横山・館
- 北部地域：加住・石川
- 東南部地域：由井・北野
- 東部地域：由木・由木東・南大沢



- (7) 調査機関：株式会社エスピー研

3. 調査項目

- (1) 定住意向
- (2) 文化芸術
- (3) 家庭教育
- (4) 「八王子ビジョン2022」の施策指標の目標値に対する達成度
- (5) 市政への要望

4. 回収結果

対象者数 : 5,000人

有効回収数 : 2,723票 (有効回収率54.5%)

5. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、n(件数)として表示した。その比率は、n(件数)を100%として算出した。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) クロス集計による分析では、性別や年齢などの分析項目の質問に無回答である回答者の集計結果は図表中に表示していないが、これらの回答結果は図表中の「全体」には含まれる。したがって、図表中に示した分析項目すべての件数(n)を合計しても、全体の件数(n)と一致しない場合がある。また、クロス集計の分析項目は、性別・年齢別・居住地域別・ライフステージ別・職業別としている。
- (6) 割合の表現については、以下の表記を基本とする。

<例>

表記	4割	約4割	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱
割合	40.0%	40.1~40.9%	41.0~43.9%	44.0~45.9%	46.0~48.9%	49.0~49.9%

また、クロス軸の分類や質問における選択肢を統合し、《 》を用いて記述している場合がある。

<例> 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を統合して《そう思う》。

6. 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ以下のとおりである。

単純無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（ n ）、および回答比率（ P ）によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答比率

例えば、ある設問の回答者数が2,723で、その設問の「良い」の回答比率が20%である場合、標本誤差は20%を中心に±1.53%の範囲内となり、標本誤差を踏まえた回答比率は18.47%～21.53%の間であるとみることができる。

同様に計算した標本誤差の早見表を以下に示す。

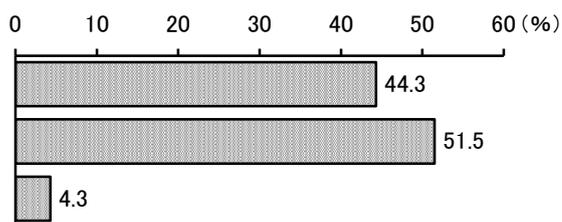
回答比率（ P ） 基数（ n ）	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
2,723	± 0.84	± 1.15	± 1.53	± 1.76	± 1.88	± 1.92
2,500	± 0.87	± 1.20	± 1.60	± 1.83	± 1.96	± 2.00
2,000	± 0.97	± 1.34	± 1.79	± 2.05	± 2.19	± 2.24
1,500	± 1.13	± 1.55	± 2.07	± 2.37	± 2.53	± 2.58
1,000	± 1.38	± 1.90	± 2.53	± 2.90	± 3.10	± 3.16
500	± 1.95	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$ として算出している。この表の計算式の信頼度は95%である。

Ⅱ 回答者の属性

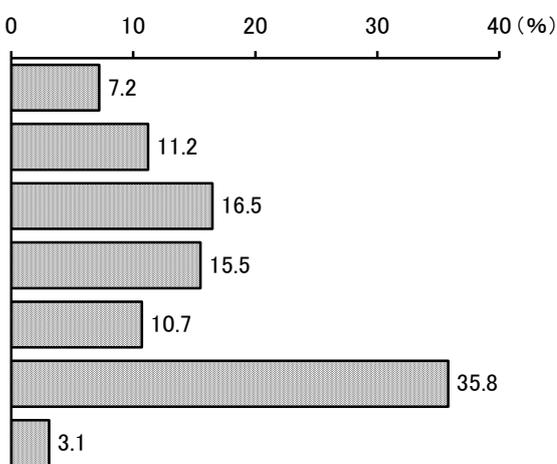
1. 性別

	基数(人)	構成比(%)
男性	1,206	44.3
女性	1,401	51.5
無回答	116	4.3
合計	2,723	100.0



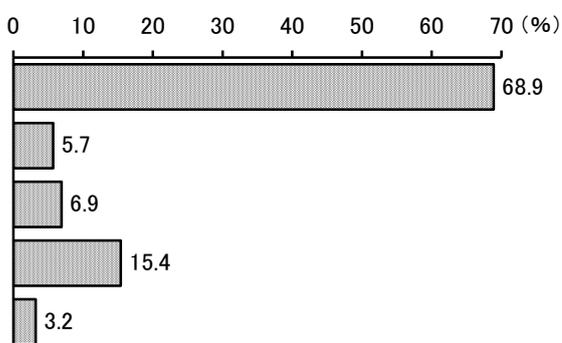
2. 年齢

	基数(人)	構成比(%)
20～29歳	197	7.2
30～39歳	305	11.2
40～49歳	449	16.5
50～59歳	421	15.5
60～64歳	290	10.7
65歳以上	976	35.8
無回答	85	3.1
合計	2,723	100.0



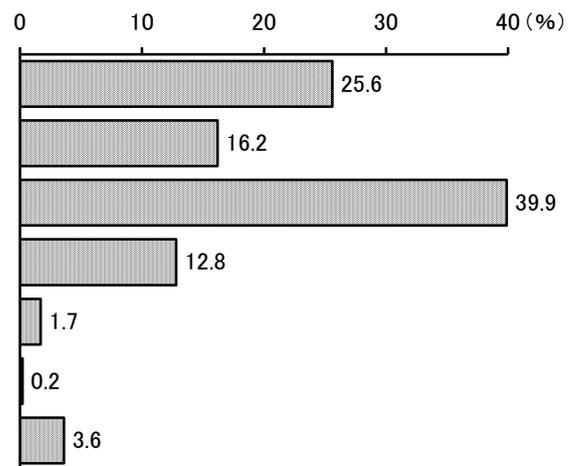
3. 配偶者の有無

	基数(人)	構成比(%)
いる	1,875	68.9
いない (離別)	154	5.7
いない (死別)	189	6.9
結婚したことはない (未婚)	419	15.4
無回答	86	3.2
合計	2,723	100.0



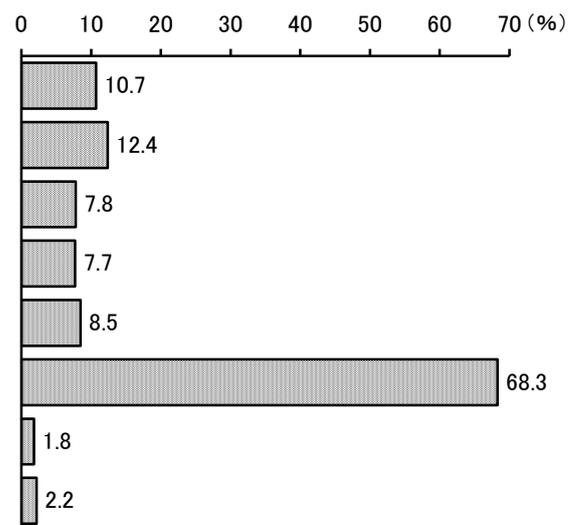
4. 子どもの人数

	基数(人)	構成比(%)
いない	698	25.6
1人	441	16.2
2人	1,087	39.9
3人	348	12.8
4人	45	1.7
5人以上	5	0.2
無回答	99	3.6
合計	2,723	100.0



4-1. 子どもの成長段階 (複数回答)

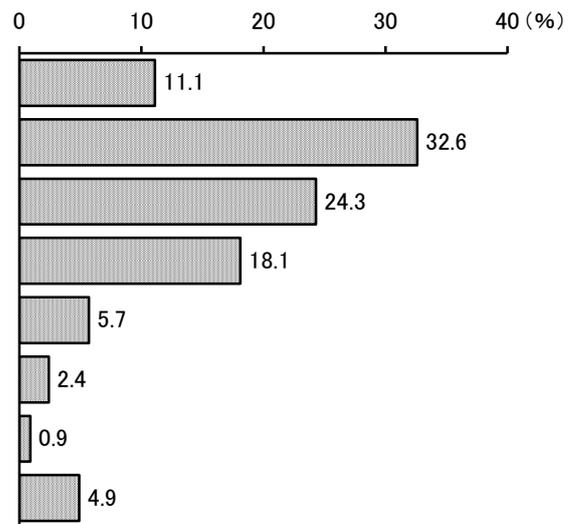
	基数(人)	構成比(%)
0歳～小学校入学前	206	10.7
小学生	239	12.4
中学生	150	7.8
高校生	149	7.7
大学生 (専門学校等を含む)	163	8.5
学校教育終了(成人・社会人など)	1,315	68.3
その他	34	1.8
無回答	42	2.2
合計	2,298	100.0



※複数回答につき合計は2,298人であるが、回答者数1,926人を基数として構成比を算出した。

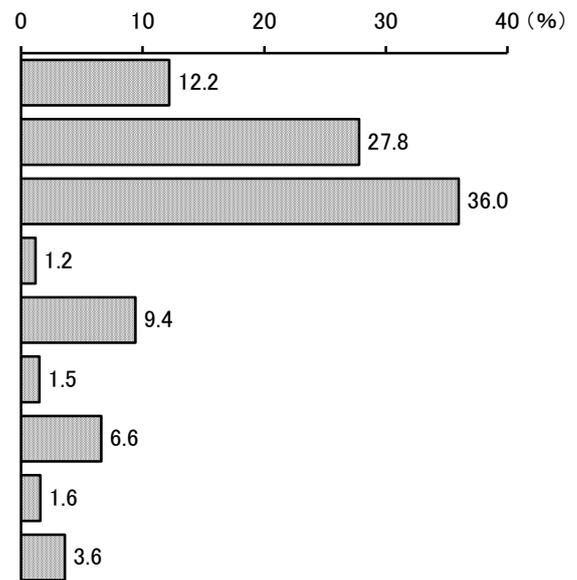
5. 同居人数

	基数(人)	構成比(%)
1人	303	11.1
2人	887	32.6
3人	662	24.3
4人	492	18.1
5人	156	5.7
6人	65	2.4
7人以上	25	0.9
無回答	133	4.9
合計	2,723	100.0



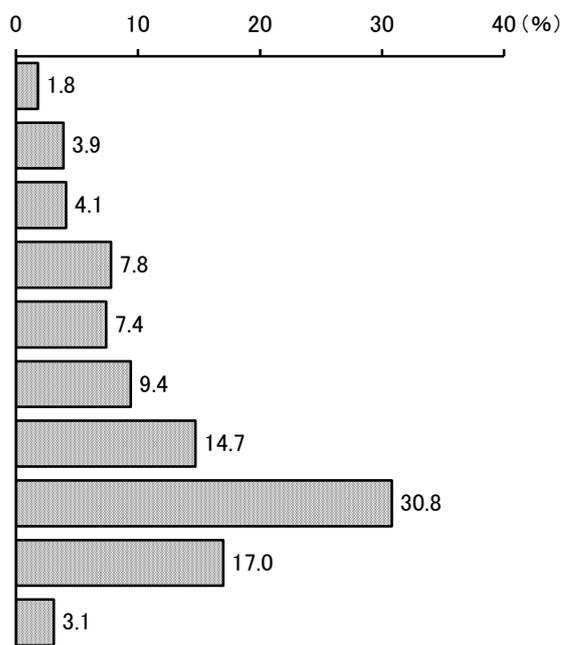
6. 世帯構成

	基数(人)	構成比(%)
ひとり暮らし	332	12.2
配偶者とふたり暮らし (事実婚も含む)	756	27.8
自分たち夫婦と未婚の子ども (または、自分と未婚の子どもなど)	981	36.0
自分たち夫婦と子ども夫婦 (または、自分と子ども夫婦など)	34	1.2
親と自分のみ (または、親と自分と兄弟・姉妹など)	257	9.4
親と自分たち夫婦	42	1.5
三世帯(例えば、自分たち夫婦と 子どもと孫、親と自分と子どもなど)	179	6.6
その他(四世代など)	44	1.6
無回答	98	3.6
合計	2,723	100.0



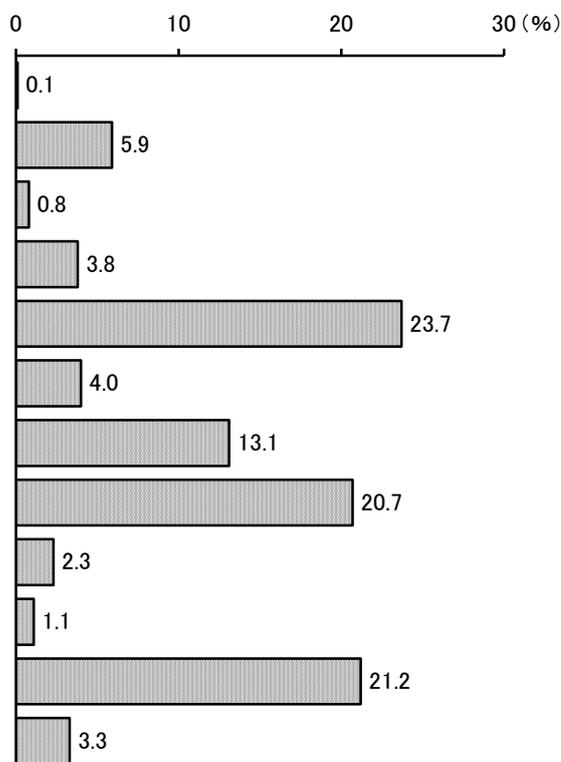
7. 居住年数

	基数(人)	構成比(%)
1年未満	49	1.8
1～3年未満	105	3.9
3～5年未満	113	4.1
5～10年未満	213	7.8
10～15年未満	201	7.4
15～20年未満	256	9.4
20～30年未満(転入して以来)	400	14.7
30年以上(転入して以来)	838	30.8
生まれてからずっと	464	17.0
無回答	84	3.1
合 計	2,723	100.0



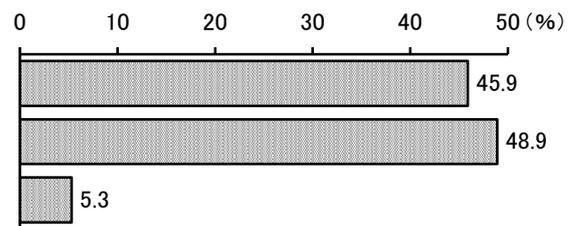
8. 職業

	基数(人)	構成比(%)
農・林・漁業	4	0.1
自営業	160	5.9
自由業 (開業医、弁護士、司法書士など)	21	0.8
会社や団体の役員	104	3.8
会社・商店・サービス業などの 勤め人	645	23.7
教員・公務員	108	4.0
アルバイト・パート	358	13.1
(専業)主婦・主夫	564	20.7
学生	63	2.3
その他	29	1.1
無職	578	21.2
無回答	89	3.3
合 計	2,723	100.0



8-1. 仕事場

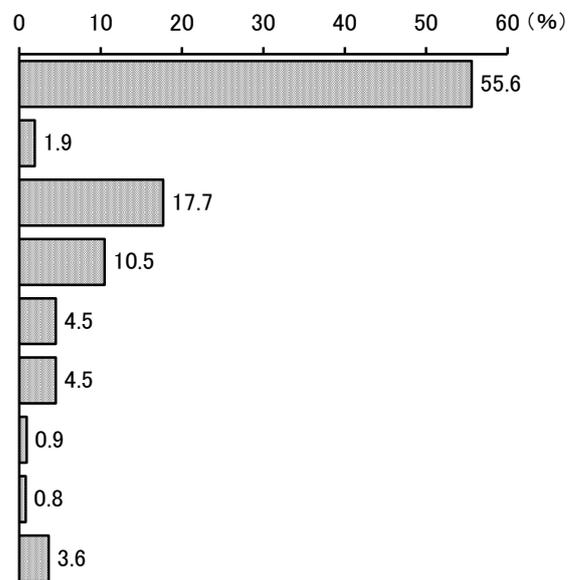
	基数(人)	構成比(%)
八王子市内	642	45.9
八王子市外	684	48.9
無回答	74	5.3
合計	1,400	100.0



※職業の回答者のうち、(専業)主婦・主夫、学生、その他、無職、無回答を除いた方に対する質問。

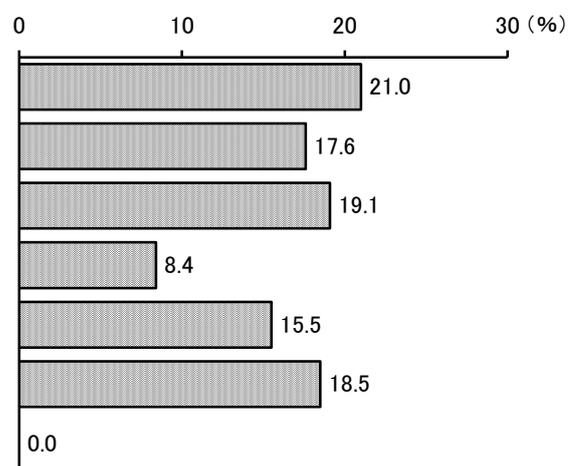
9. 居住形態

	基数(人)	構成比(%)
戸建て(持ち家)	1,514	55.6
戸建て(借家)	53	1.9
分譲マンション	481	17.7
民間の賃貸アパート・マンション	285	10.5
公営賃貸住宅(都営・市営)	122	4.5
UR(旧公団)・公社の賃貸住宅または都民住宅	122	4.5
社宅・官舎・寮	25	0.9
その他(間借りなど)	22	0.8
無回答	99	3.6
合計	2,723	100.0



10. 居住地域

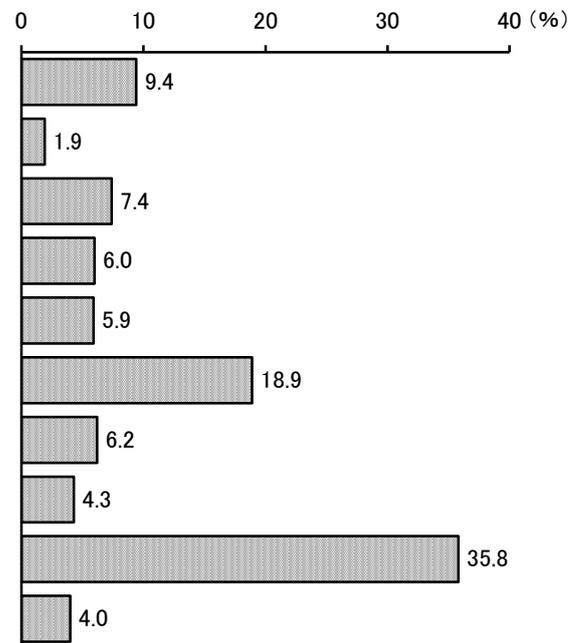
	基数(人)	構成比(%)
本庁管内(中央地域)	571	21.0
元八王子・恩方・川口(西部地域)	478	17.6
浅川・横山・館(西南部地域)	519	19.1
加住・石川(北部地域)	230	8.4
由井・北野(東南部地域)	421	15.5
由木・由木東・南大沢(東部地域)	503	18.5
不明	1	0.0
合計	2,723	100.0



11. ライフステージ

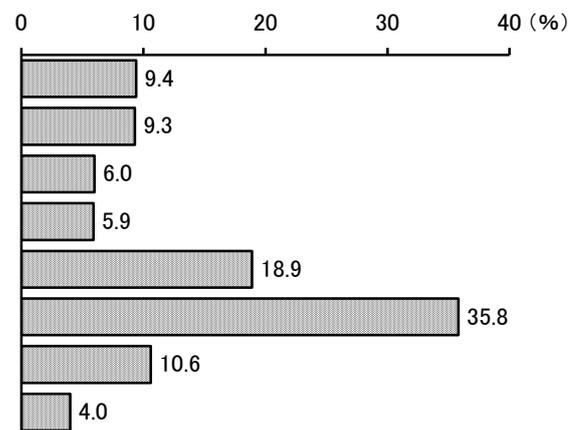
「2. 年齢」「3. 配偶者の有無」「4. 子どもの人数」「4-1. 子どもの成長段階」により、ライフステージの区分を作成。

	基数(人)	構成比(%)
20～39歳で単身者	256	9.4
20～39歳で配偶者がいて子どもがいない	51	1.9
20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前	202	7.4
20～64歳で一番下の子どもが小学生	164	6.0
20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生	162	5.9
20～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している	514	18.9
40～64歳で単身者	170	6.2
40～64歳で配偶者がいて子どもがいない	118	4.3
65歳以上	976	35.8
無回答	110	4.0
合 計	2,723	100.0



■ ライフステージ (集約型)

	基数(人)	構成比(%)
独身期	256	9.4
家族形成期	253	9.3
家族成長前期	164	6.0
家族成長後期	162	5.9
家族成熟期	514	18.9
老齢期	976	35.8
その他	288	10.6
無回答	110	4.0
合 計	2,723	100.0



■ ライフステージ区分

独 身 期	20～39歳で単身者
家 族 形 成 期	20～39歳で配偶者がいて子どもがいない または、20～64歳で一番下の子どもが小学校入学前
家 族 成 長 前 期	20～64歳で一番下の子どもが小学生
家 族 成 長 後 期	20～64歳で一番下の子どもが中学・高校生
家 族 成 熟 期	20～64歳で一番下の子どもが高校を卒業している
老 齢 期	65歳以上
そ の 他	40～64歳で単身者 または、40～64歳で配偶者がいて子どもがいない